

広島バス29号線（矢賀経由）の実証運行



■ 運行概要

(1) 内容

- ・広島バスが都心部で2往復程度減便し、郊外部のフィーダー区間で5往復程度増便（オフピーク時のみ）
- ・温品四丁目バス停を跨いで利用する人は、同バス停で広電バスと広島バスを乗り換えて利用

〔 広島電鉄の温品四丁目の車庫に広島バスが乗り入れ、バス停を共同使用 〕



(2) 検証内容

- ・フィーダー化を伴う増便によるアクセス性の向上と、乗り換え時の抵抗感が利用に与える影響を検証
- ・事業者の運行効率化を検証

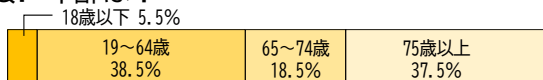
■ 運行結果

(1) 利用状況の変化（前月比）

- ① フィーダー区間の利用者数は大きく増加（8.7人/日 → 26.0人/日）
⇒ 増便による利便性向上の効果が確認できた。
- ② 温品四丁目を跨ぐ利用者は減少（61.6人/日 → 41.0人/日）
- ③ 並行する他路線※を含めた広島バスセンターから小河原車庫間の利用者数は約1割増加（2,971人/日 → 3,256人/日） ※広島バス29号線（大内越峠経由）、広電バス2号線
⇒ 区間全体としては利用者数が増加していることから、多様なニーズに応じた効率的な運行が実現できたものと推測できる。

(2) フィーダー区間の利用者へのアンケート結果（回答総数：265件）

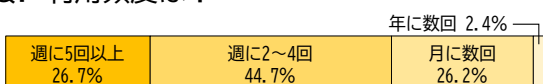
Q. 年齢は？



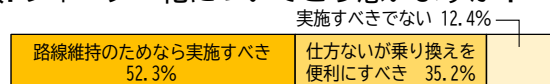
Q. 今回の増便による変化は？



Q. 利用頻度は？



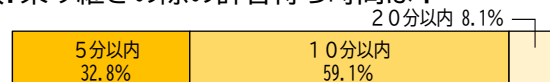
Q. フィーダー化についてどう思いますか？



Q. 今回の利用目的は？



Q. 乗り継ぎの際の許容待ち時間は？



広島電鉄1号線、55号線の実証運行



■ 運行概要

(1) 内容

地毛バス停と薬師が丘団地、東観音台団地の間を、小型車両により増便（3～5往復）（オフピーク時のみ）
 ※五日市駅北口バス停、広島バスセンター発着の既存便は現状どおり運行

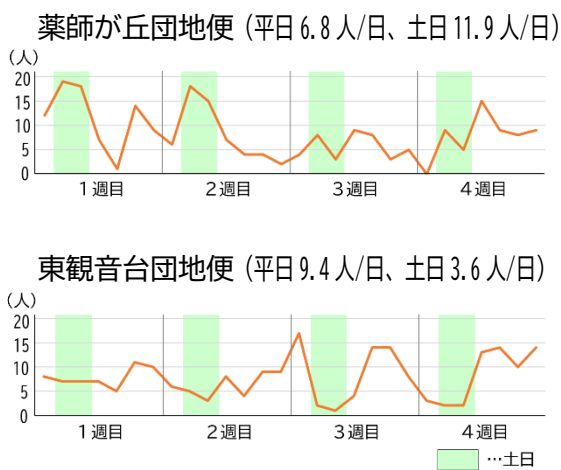
(2) 検証内容

団地と地域の生活拠点や都心等とのアクセス性の向上により、新たにどのような移動需要が喚起されるかを検証

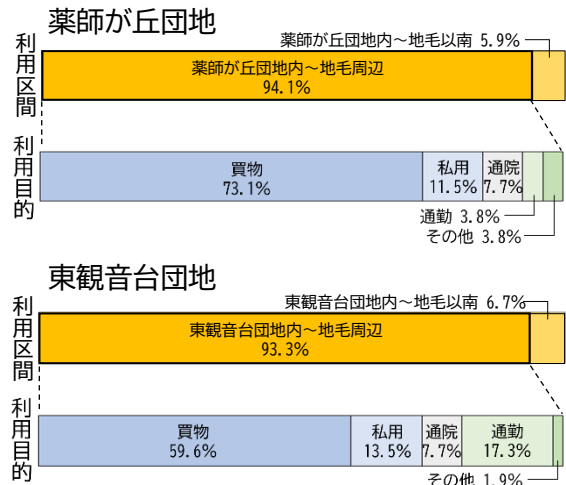


■ 運行結果

(1) 増便区間の利用状況



(2) 増便区間の利用者へのアンケート結果 (回答総数：119件)



- ・ 団地と地毛周辺を買物目的で往来する利用が大半であり、都心や五日市方面との往来のための乗継利用は少なかった。
- ・ 既存便の利用者数は大きく変わっておらず、今回の増便により、新たな移動需要が喚起されたものと思われる。